

第5回市民公開学習会 日本とコリアを結ぶ会

何の非も罪もなく殺されていった人びと

90周年を前に、関東大震災下の悲劇を学びます

—関東大震災～その隠された真実・パネル展・下関～から5年後—

今から90年前の大正12(1923)年9月1日午前11時58分、伊豆沖30kmの海底に大地震発生—マグニチュード7.9、関東一円が大激震に見舞われました。

やがて朝鮮人が「放火略奪を行っている」「井戸に毒を投げた」等のデマが流れ、9月3日内務省警保局長名で「東京付近ノ震災ヲ利用シ、朝鮮人ハ各地ニ放火シ不逞ノ目的ヲ遂行セントシ、現ニ東京市内ニ於イテ爆弾ヲ所持シ、石油ヲ注ギテ放火スルモノアリ。・(中略)・鮮人ノ行動ニ対シテハ厳密ナル取締ヲ加エラレタシ」と電文を全国各地の地方長官宛に打電した。デマは拡散され、朝鮮人は日本の官憲と民衆により大殺戮を受けた。その犠牲者数は6000人をこえるともいわれています。



河畔での朝鮮人虐殺現場スケッチ
(「未来をひらく歴史」)

2008年1月、5日間にわたって私たちは下関活動センターで関東大震災朝鮮人虐殺のパネル展を行いました。その際、これを下関で行なう意味を大虐殺で亡くなった朝鮮人の大半の人々が大日本帝国により土地を奪われ、家族はばらばらになり、生きるために関釜連絡船でやってきたのが下関であったことを再認識しました。いわば下関は在日コリアンにとって『日本人による差別』が始まった街であり、彼らが差別や偏見と闘った原点の街ともいえるのです。昨年、私たちは「日本とコリアを結ぶ会」を立ち上げ、下関を国際的にも誇れる街にしようという思いで活動しています。

関東大震災において何があったのかという「真実の歴史」にふれることはその確かな一歩となることでしょう。奮ってご参加ください。

※関東地方にある追悼碑や虐殺の跡をパワーポイントで一緒にたどりましょう。

8月31日(土)14:30～16:00

- 現場を観て～内岡貞雄(長生炭鉱の“水非常”を心に刻む会・副代表)
- 韓国では今～鎌野保雄(日本とコリアを結ぶ会・代表)

下関市勤労福祉会館 2階第4会議室

参加費:500円

主催:日本とコリアを結ぶ会 連絡先 090-4898-0128